

会 議 の 概 要

会議名	第 1 回 （仮称）次期堺市基本計画等策定検討懇話会
開催日時	令和 2 年 2 月 19 日（水） 15：30～17：00
開催場所	本庁地下 1 階 大会議室（東）
出席委員	（出席）奥村委員 渋谷委員 所委員 橋爪委員 増田委員 松永委員 （欠席）なし
堺市	市長
公開の可否	可
議題及び結果の概要	1 開会 2 座長選出 増田委員が座長に選出 橋爪委員が副座長に座長から指名 3 堺市マスタープラン及び堺市まち・ひと・しごと創生総合戦略の振り返りについて 資料 1 4 （仮称）次期堺市基本計画策定にあたって 資料 2 事務局説明：資料説明 増田座長 堺市マスタープランの KPI（成果指標）はアウトカムを意識しすぎて、市民アンケート結果も指標としてたくさん使われているが、これは非常にバイアスがかかりやすい。また、目標を高く設定しすぎているところもある。 次期計画においては、指標の伸びしろを考えた方が良い。 例えば、毎年 2 % 向上するとか、職員の側も達成感、自信、誇りを生み出すような目標値の方が良いと思う。 5 SWOT 分析について 資料 3， 4， 5 6 （仮称）次期堺市基本計画の方向性（案）について 資料 6， 7 以上、事務局説明 意見交換 橋爪委員（■は委員提出資料の項目による） ■大状況と課題認識 日本は少子高齢社会と言われるが、これは日本だけの現象ではなく、中国もまもなくそれに突入し、2050 年にはほぼ世界中で高齢化が進み、2100 年には地球の人口がほぼ横ばいになると言われている。 日本はその意味で世界に先んじて少子高齢化を経験している。課題解決先進地として他国に先んじてビジョンを示す必要がある。 サイバーとフィジカルの融合の中で、新しいサービスがある。大阪・関西万博を契機に国際化が進展するので、ダイバーシティが重要になる。 都市間競争がますます激化している。例えばスマート化では、世界の各都市が、かつてはバルセロナを参考にした。あるいはウォーカブルなまちづくりでは、ポートランドやメルボルンが先進事例として注目されている。世界中の都市が先進事例を参照に、新たな試みを重ねる都市間競争を継続している。 ■基本的な考え方 「ワン・アンド・オンリー」（唯一無二）の都市として、堺市民の皆が、堺に生まれ育って良かった、誇りに思う、他の都市とは異なると思えるような都市を目指すべき。

すべての世代、すべての人が人生を充足することができること。

若者が住み続けたい、働き続けたい街にしなければ将来のビジョンの結果が全く変わってくるだろう。これらの3つの基本的な考え方が重要である。

■課題と重点化すべき領域

課題と重点化すべき事項では、20歳代の若者の市外流出への対応が最大の課題。スタートアップシティへの転換が必要。

子育て世代の支援では、今回のコロナウイルスの問題で一層注目されたICTを活用したリモートワークなどの働き方を考える必要がある。

堺東や堺市駅など、ウォーカブルかつ若者にとって魅力ある都心の創生が重要。

歴史を生かした都市づくりの深化が必要。環濠、百舌鳥・古市古墳群のアピールをより一層していくべき。

自動車社会から歩行者優先。ウォーカブルな都市の観点では、従来とは異なる公共交通手段について、堺市ならではの挑戦があればよい。

都市防災の強化とレジリエントシティへの発展。横並びではないコミュニティに根差した防災が重要。

次世代の堺を牽引する新たな基幹産業の育成。製造業がまだ元気なうちに、次の産業を育成すべき。

都市のブランディング戦略が不十分。対外的なアピールもそうだが、住民が誇りを持つという意味でも重要。

歴史遺産を活かした文化観光の先進地になることを考えるべき。先人の顕彰、水辺の再生、環濠の復活を含めた歴史遺産を活用した文化観光の資源が堺にはある。

■次期基本計画を補完する都市魅力戦略と都市デザインの必要性

今回の基本計画において、すべての世代、すべての人に魅力的な都市をめざす部局横断型の「都市魅力向上戦略」が必要。横断的な強いプロジェクトの考え方を取り入れてほしい。

若者や起業家、投資家、観光客を集める「集客都市」のデザインでは、人口の規模ではなく、人が魅力を感じ、集まるところこそが都会である、という持論。

時代に応じた新たな組織と、新たな公共施設の利活用のあり方を示すべき。エリアマネジメントやパークマネジメント、河川空間や道路空間の利活用などの工夫が必要。

フラッグシップとなる事業立案と地区ごとに夢のあるビジョンを示す。堺グランドデザイン2040で示された方向性を支持したい。

■具体的には下記など

市政に関する新たなシンクタンク機能の確保が必要。公立大学法人大阪などとの連携、関西大学含めた堺の大学との連携など。

部局を横断する都市魅力向上の戦略立案が必要。

文化芸術振興策、観光振興策、産業振興策の相乗効果をはかる戦略強化と組織を拡充すべき。横連携が重要。ロンドンでは五輪の際にこれらを横断的に集客戦略を立案。

公民連携による公共空間の利活用。大阪では、パークマネジメント、河川空間や道路空間の民間による活用を提案し、実践してきた。堺でも展開が必要。

大学生や若者にとって魅力ある都心の再生。

歴史的な資産の再生と利活用、歴史的な界隈の再現。ぜひとも実現してほしいが、中世・近世、どの時代で再現するか。

MaaS（Mobility as a Service）の導入や自動運転対応による市内交通の再編と新たな公共交通の検討。東西鉄軌道と次世代型交通の導入。

堺東駅周辺など、自動車優先から歩行者や自転車優先の都心への転換。

都市緑化フェアの誘致とパークマネジメントの導入。皇室の方が来られるような、注目度の高い催事を行ってはどうか。

堺浜、浜寺水路、大浜など、ベイエリアの魅力向上が必要。リノベーションが必要な時期に来ているのでは。

個別の意見ではあるが、水上飛行機など新たな遊覧に特化した魅力づくり。ベイエリアなどで話題となる観光事業の展開が必要。広島で民間が展開している水上飛行機や露天風呂付遊覧船など、ハイエンド層を狙ったアクティビティの事業展開を堺でも検討すべき。そもそも大浜は日本における民間航空事業の発祥の地。リバーフロント開発もあわせて、東洋のベニスと呼ばれた堺の復活を果たしたい。

渋谷委員

民間の場合、その組織に投資したいと思うかどうかは、ガバナンスが効いているかです

	判断する。 全国の様々な自治体、特に地方に行くと、危機感が強い。公共サービスについて、現在の範囲を維持することが難しくなっており、民間を使わざるを得ない状況になっている。 ガバナンスを効かした透明性の確保が重要。オープンガバナンスのもとで参加参画の仕組みを作っていくことが重要。 イノベティブな都市という将来像だが、イノベーションを起こすためには投資なりチャレンジングな場が必要。だが現状まだ弱い。 中百舌鳥で行われている第二創業のイベントが素晴らしい。力のある若い経営者がいると思っている。 サイバーとフィジカル社会をうまくつなぐことが重要。 これからのまちづくりにはデータが重要、データ駆動型都市、ということになってくる。まちづくりのエビデンスとしてのデータ、それに対する投資が必要。 データを活用できるフィールドがあることが民間企業にとって大事で、データドリブンなまちにすることで、民間の投資を引き出せる。 世界の流れでは、工業化の中で工場地帯として開発されたウォーターフロントが、産業構造が変わり、新しい価値を生むところが変わろうとしている。 神戸でもウォーターフロントの開発の話を進めているが、堺はやり方ひとつで何とでもなる。ウォーターフロントの再生は期待できる。 増田座長 行政の持つ自信と責任、これがないといけない。批判され過ぎて自信を失っている。 ガバナンスが投資を呼び込むために重要という指摘があったが、この視点が今の資料になかなか出てこない。 所委員 書いてあることの一つ一つはその通りだが、一緒にやりたい、という気持ちを出すことが重要。 行政の中からも元気な力が見えるような計画にしたい。 計画の主語はだれかということ。行政が責任主体なのはまちがいないが、市民が自分たちのまちをどのように見ているのか、一定共有することが重要。 計画である以上、成果を見るべきだが、どう取り組んだか、というプロセスの評価も大事ではないか。 行政と市民、いろんな人たちとの関係性をどうつくるか。高齢化が進んでいることでこれまでできていたことができなくなってくる。堺市では支えあいの活動が比較的出来ているが、複雑な生活課題を抱えている人も多い。 人口減少で担い手が減っていくなか、協働してやっていかないとけない、関係性をしっかりつくらないとけない。その意味でガバナンスは行政内とそれ以外でも重要。 いろんな分野の相乗効果が生まれることを意図していることが見える計画になればと思う。 増田座長 相乗効果を高める施策を実施していくには、部局横断的な施策が必要。例えば、子育て・教育、健康福祉と産業経済とか。まだ縦割りが見える、連携してどんなことができるかを考えなければいけない。 奥村委員 子育て・教育、働く人口が流出する中で将来のつかけを担わされる感じがする。子育て中の人も子どもと共に創っていくという視点が必要。 ここで子どもとずっと育って行こう、という判断は、生まれてからしばらくの数年のうちで決まる。
--	--

子育て中の人も、支えてもらうだけでなく、いかに参加できるか、という視点が大切。
また、子どもの視点も大事である。自転車のまち、という子どもの作文を昔見たが、大人が今やろうとしているのはまさにその内容。子どものアイデアの中にも見るべきものがある。

増田座長

実現するための社会システム、行政システムをどう考えるか、という内容が資料にはない。

市民の参画を促すためには、オープンガバメント、公開性が守られていることが大事ではないか。

松永委員

堺は数十年に一度のビッグチャンスが来ていると思う。百舌鳥・古市古墳群が世界文化遺産に登録された。また、芸術文化ホール・フェニーチェ堺が開設され、全国に誇れるホールができた。フェニーチェ堺は堺だけでなく、南大阪、関西の財産になる。

2つの観光資源ができたことで、これまでの産業拠点、ニュータウン・ベッドタウンから成熟都市へと進化していくチャンスだ。

壁を超えて文化芸術、産業振興、観光振興、一体としてブランディングしているかがカギになる。

大阪市がいろいろな改革や開発を進めている。都市ブランドが高まっている。

相対的に堺市を考えた時に、泉北ニュータウンをはじめ、今後も人口の減少が進む。都市ブランドの向上が重要。

フェニーチェ堺で大きな公演が堺で見られるようになったように、芸術に長けた人が堺に訪れるようになる。

ベッドタウンの基盤を保ちつつ、いかに交流人口を増やしていくかが重要。フェニーチェ堺で演目を見て帰るだけにしない。交流する人口の質が重要。

テレワークの普及については、行政が関与しやすい。遊休資源を活用できる。パソコン1台あれば仕事ができる時代。市内でサテライト拠点を整備するなど、新しい時代の交流人口を作っていくのはどうか。まさに集客都市をデザインしていくことを今後10年、20年の一つのテーマにできればよい。

増田座長

ワークホリックがワークライフバランスに変わりつつあるが、職住一体というのが、次のワークスタイルになるのではないかと。そうしないと堺はベッドタウンから抜け出せない。「働く」と「暮らす」の合一が進む。その意味では今の働き方改革は一周遅れている感じがする。

市長

初回から本質を突いた意見をいただいてありがたいと思う。（仮称）次期堺市基本計画が良いものになったと思う。

橋爪委員が言っていたことに、私がやりたいことが多く含まれている。他の委員も方向としては同じ。あとはどう実現していくかだと思う。

縦割りにしないための庁内連携の強化はやっていく。特に、都市魅力、SDGs等については庁内連携を強める。

マスタープランの指標が達成できないのは、市民はマスタープランに関心がないし、行政は自分の部署のことしか関心がないことも影響している。

市民に明確な役割を負ってもらうのは難しいが、市民にやってもらう、ということは明記できたらと思う。

データドリブンというのは今までの行政に欠けていたところ。エビデンスに基づく政策立案を徹底することで、投資を呼び込む。方向性を示すことで民間企業が携わりやすくなる。

ウォーターフロントについては、高度成長時代に浜寺、大浜の水辺を埋め立てて工業

	化を進めてきた。産業集積をもたらしたが、一定の役割を終えた。公害の問題を生み出した面もある。 公害から SDGs へ、というストーリーも描ける。水上飛行機とか富裕層向け遊覧船とか是非トライしてみたい。 子どもたちにツケを残さない。子育て世代にしっかり関わっていただく。ということで、ぜひ参画をしていただきたいと思っている。 堺の場合は、小学校区ごとに自治連合会有る。行政がそこに頼っているが、高齢化が進んでいる。一方で若い世代は仕事や子育てで忙しくて参加できない。若い方も関わってもらうこと、孤立した環境にしない、メインプレーヤーになってもらうことが必要。 わかりやすく、市民が携わるイメージが持てるような計画にして、私が持って行って「一緒にやろう」と言えるような計画になればと思う。 働く場所と暮らす場所ということについては、泉北ニュータウンは人口が 16 万から 12 万位に減った、背景の一つに働く場所がないから、というのがあった。近大医学部・近大病院の開設を機に、ヘルスケア分野を中心に働ける場所に変えていきたい。 橋爪委員 数値目標とは別に、市民の方にも分かりやすい指標が必要。例えば自転車にやさしい都市の世界ランキングがある。上位はいつもアムステルダムとコペンハーゲン。日本は東京と名古屋が時々 20 位以内にランクインする。ここに堺が挙がってこない。名古屋はコペンハーゲンの事例を研究したようだ。 色々な都市ランキングがあるので、その辺りも研究をされたらどうか。 増田座長 「環境像・空間像」「機能」と「社会システム」の 3 層があるとすれば、今の案（資料 6）は機能が書かれているが、環境像・空間像が示されていない。ウォーターフロントの話は空間像の一例。 具体的空間像が示されないと人がついて来ない、そこが抜けている。 そして、それを支える社会システム・行政システムはどうか、書かれていない。「機能」というあんこはあるが、上と下がない。 産官学民の連携では、行政のビジョンを共有し、産業界や市民が行動に移してもらうことが必要。 都市は単独では持続しない。食料も生産しない。パリでもニューヨークでも植物工場や都市農園を作るようになってきている。消費拠点である都市が持続するためには、水・エネルギーや食糧を生産する必要がある。 堺には農地があり、その可能性がある。エディブルシティとしての大きなポテンシャルを持っている。 市長 イノベティブという言葉を選んだのは、今の堺に欠けているが、それが生まれる土壌があり、可能性を秘めていると考えているためである。クリエイティブは、イノベティブな土壌があつてこそ生まれるものと考えている。 ずっと堺にいと大阪市の变化も知らない人がいる。今の周りの状況を客観的に把握できるデータや近隣の変化も分かるようにしたい。全員は難しくてもイノベーションが起こるような地域にしたい。 4 閉会
--	---